

将来リーダーになる君へ 専門外の専門書を読む

アインシュタインほど、時代によってイメージの違う科学者もないでしょう。私が物理学を志した頃は「原子力の父」でしたが、今の若い人にとっては、今日の宇宙論の基礎を築いた人でしょう。面白いのは光量子仮説の発表から100周年になる2005年に書かれた図版で、アインシュタインが「太陽光発電の株を買っておくんだ」と嘆いています。

要するに彼の業績が、物理学のみならず、幅広い科学・技術の基礎を開いたということなのです。が、そのアインシュタインに、長い間全く引用されず、最近になって(批判的な立場での)引用数が増えたEPR論文というのがあります。量子力学の根幹である量子もつれ状態は因果性に反するから間違っているという主張で、

固定概念を乗り越えて 佐藤氏

実はこれを発表した頃から彼の周りには若い物理学者が寄りつかなかった。なにしろ、量子力学は間違っているというのですから。そして今日、量子コンピュータ、量子情報といったテクノロジが話題になり、彼がえぐり出した量子もつれ状態が鍵概念になると「間違っていたが、やっぱりEPR論文はすごい」と評価されているというわけです。

このアインシュタイン観の変遷には、私たちが陥りがちな態度が現れています。「今現在の(主流)になっている事柄の(視点)からしか過去が見えない」ということです。私が、理系・文系を問わず科学史を読むことを重視するのは、こうしたいわば「勝ち組の歴史観」を乗り越えることが、若い知性にとって重要だと思っているからです。



講演に聞き入る学生ら(京都大) 大西健次撮影

講演

「踊る大捜査線」という映画の舞台になった場所で、「お台場合衆国」というフジテレビのイベントが開催されていました。このフレーズを聞いて、何を考えますか。お台場は江戸時代末期、アメリカ合衆国太平洋艦隊の日本に対する威嚇に備えるためにつくられた砲台が設置された場所です。時を隔てて、お台場に合衆国を組み合わせたネーミング。何か面白いねと気づく感性、イマジネーションを持つことがやがてリーダーたるものの気構えや心得、物の考え方の基礎になっていくのです。大学は人文社会系、自然医薬系問わず、物を学ぶ根柢を与えてくれる場所です。そして、皆さんには夢と同時にリーダーシップというものが必要になってくる。夢は自分だけのことを考えれば良いの

夢かなえる体系的学び 山内氏

ですが、リーダーは他人の夢にも責任を持つ志というふつに考えればいい。夢、志をかなえるためには系統的な努力が必要です。理系の諸君ならば実験や計算を積み重ねる粘り強さと基礎的読書力、文系の諸君ならば体系的な古典を含む読書力ということになる。

イラクの歴史家、イブン・アッティクは本についてこう語っています。「私のもとには話しても話しても倦むことのない友人がいます。教養、意見、名譽、威厳、全てを教えてくれる。誠実で一番信頼できる友人だ」。経験で全てを知っているから本を読む必要はないという企業の経営者がいます。それは間違いです。きちっとした書物を読み知識を獲得した者と、持たない者が同じということはありません。

主催 京都大学付属図書館
京都大学学術出版会
協力 活字文化推進会議